

# 日高町長 町政一期目の所信表明

## 11つの町政運営姿勢、4つの戦略

6月定例議会において、日高町長が、町政一期目の所信表明を述べましたので、その概要をお知らせします。

### 町政に対する所信

平成21年の第6回定例議会が開会されるに当たりまして、私町長に就任後最初の定例議会であり、今後の町政運営に対する私の所信と決意の一端を申し述べさせていただきます。議員各位をはじめ町民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

先の選挙におきまして、多くの町民の皆様の温かいご支援とご支持を賜り、初当選をさせていただき誠に光栄に存じますとともに、私に課せられました責務の重大さに、改めて身の引き締まる思いであります。

議員各位におかれましては、選挙区の撤廃と定数削減を受けての選挙でありましただけに、喜びもひとしお大きいと存じます。

今後におきましては、議場の場に限らずあらゆる場

面で町政運営に對しましてご指導ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

さつま町は合併後5年目を迎えています。本町の現状は少子高齢化の急速な進展とともに増大する行政需要、激特事業などの豪雨災害復興、財政の健全化、町内経済の活性化など多くの課題が山積しております。

これら諸課題を一つずつ解決していくとともに、町民が夢と希望をもてる元気なまち・住み良いまちづくりをめざし、職員一丸となり誠心誠意職責を全うする覚悟であります。

地方は今、歴史的に大きな転換期を迎えています。地方分権の主旨は「地域が主体的に自らの責任において地域づくりを行う」とされておられ、これまでの国依存から自己決定・自己責任による行財政運営へ転換しなければならぬ環境下に置かれています。

私は、このような地方自治を取り巻く環境変化を認識しながら、この度の町長選挙に当たりまして、三つの姿勢と四つの戦略を掲げ、

トップとしての決断と実行、強いリーダーシップを掲げてまいりました。

短期的に実現可能なもの、中・長期的な時間を要するものなど確実に政策反映していきたいと思う次第であります。

所信の基本姿勢につきましては、マニフェストに掲げた内容に基づきながら述べさせていただきますと思います。

まず、町政運営の姿勢として一つ目には、「誠実で公正かつ透明性の高い町政」二つ目は、「住民視点・現地現場主義による対話と協働の町政」三つ目は、「効率とスピード重視の町政」を基本姿勢として、取り組んでまいります。

また、これまで培いました人脈と行政経験、そして合併後の議会議員3年2か月という短い期間ではありますが、町民の立場から町政を見る・考えるという町民目線を養う貴重な経験など、これらをフルに活か

し町民の声に耳を傾けながら、町民が「夢と希望をもてる元気なまち」をめざし

て全身全霊を傾けて努力してまいります。

職員には私の町政への取り組み姿勢を明確に指示・伝達を行い、コミュニケーションを密にしながら、スムーズな町政運営が図られるよう努めてまいります。

町政の重点施策として四本柱の戦略宣言

「元気な農林業・商業の町宣言」

一番目の柱として「元気な農林業・商業の町宣言」

具体的戦略として「農業・商業・核都市の創造」であります。

さつま町は、豊かな農林資源、商工業資源を有しています。これら個性あふれる資源を地域振興の柱として、新たな地域の飛躍を図るため、まず「農業・商業・核都市の創造」の提唱をした



所信表明を述べる日高町長

本町には、北薩森林管理署、北薩地域振興局、北薩森林組合、JAさつま、北薩農業共済組合など、主要な農林業関係機関・団体が集積しておりますので、これら農林業の中核機関が互いに連携・協力することにより「農林業・核都市の創造」と併せ、関係部署との連携により町の基幹産業である農林業の発展につながるものと思っております。

「JAさつま（農協）」と連携した「薩摩のさつまブランドづくり」

本町には、「奥さつま米」「梅」「イチゴ」「トマト」「ゴボウ」「お茶」「タケノコ」「マンゴー」「きんかん」「里芋」「カボチャ」などがあり、豊かな農林産物の産地です。これらの豊かな農林産物の有利販売と水田の有効活用を図ることが重要な課題と考えております。

また、優秀な種雄牛に恵まれ全国に誇れる「優良牛」の産地でもあり、これら全国に誇れ、自信のもてる農畜産物をJAさつまと連携して「薩摩のさつま」のブランドとしてトップセールスを行い売り込んでまいります。



川薩畜産共進会

肉用牛振興につぎましては、将来畜産の核となる経営体の創出・育成を図るため、飼料生産基盤の整備や施設整備を推進するとともに、薩摩中央家畜市場のグレードアップと周辺道路の改修に努めてまいります。併せて、優良牛の保留導入、「さつま牛」のブランド振興、和牛導入支援事業を行いながら肥育農家の支援にも努めてまいります。

これまで取り組みを進めてきた、グリーンツーリズムの推進、地産地消の更なる推進と併せながら、良質米生産支援、さつま茶の銘柄確立に向けた振興策などの新たな分野にも力を注いでまいります。

### 「農林業の6次産業化」について

生産者の所得向上に資するため、これまでの農業（1次）、加工（2次）と販売（3次）を加えることで、農産物の付加価値が高まり新たな特産品も生まれ、地域農業の活性化が図られるものと考えております。また、そこには地場産業が育ち雇用場が生まれ、併せて地域農業が大きく飛躍するものと考えておりますので、農林業の6次産業化を進めてまいります。

### 「有害鳥獣対策の推進」について

近年、イノシシ、シカ等の有害鳥獣による農林産物の被害が多発し、農林産物の生産に支障をきたしており、山間地域では深刻な状況であると認識しております。本町は有害鳥獣捕獲の許可に関する権限委譲を既に県から受けており、迅速な捕獲対応ができる体制でありますので、猟友会・駆除隊の協力を得ながら、併せて、

農家の自発的捕獲の促進を含めた対策を講じてまいります。

なお、本年度鳥獣被害防止特別措置法に基づく「鳥獣被害防止計画」を作成し、農林産物等の被害防止のための施策を、防止と捕獲の両面から総合的かつ効果的に推進してまいります。

### 「オンラインワンの商店街・商店・商品づくり」について

魅力ある商店街づくりをはじめ、商店街を活性化するには、さつま町独自の個性あふれる商店、そこしかない「オンラインワン」を創り出すことが重要であると考えます。これまで、創出された「さつま百縁祭」や「プレミアム付商品券」の発行など支援してまいります。

地元商店街の新たな利用促進の仕組みである、ポイント制の導入により商品券などに引き換えるシステムをつくり、町内消費の循環を拡大したいと考えております。

また、事業者のやる気を支援するため、「業態転換、商品開発、技術習得支援」制度等の創設を検討してまいります。その他後継者・新規参入者等のチャレンジの機会提供、インターネットを活用した魅力やイベント

ト等の情報発信、農・商・工・観の連携による総合力の発揮についても関係機関・関係団体と一緒にについて研究・検討を進めてまいります。

### 「企業立地の促進」について

企業立地については、土地取得、造成に対する助成制度を見直し、工場建築、設備投資に関する助成策を研究・検討し、新たな企業の誘致と併せ、既に町内に立地されている企業の設備投資の機会を拡大していただき、雇用確保を推進してまいります。

### 「子ども健やか育成宣言」

#### 二番目の柱「子ども健やか育成宣言」

少子化に伴う人口減で、高齢化も急速に進行しています。その結果何が起きるかと言いますと、15歳から64歳までの生産年齢人口が減少し、質の高い労働力不足や内需の縮小といった経済的な面や、社会保障等福祉面への影響がいずれ避けられなくなつてまいります。従って、未来を担う子どもを「地域の宝」として健やかに育てることが今やらなければならない大きな課題であると思っております。

地域・学校・家庭が連携して健全育成が図られるよう取り組んでまいります。

具体的戦略として、「子どもを育てるならさつま町で」の創造であります。

少子化対策として、第3子以降の保育料の軽減措置を図り、多子世帯への経済的支援を実施してまいります。

また、「子ども健やか商品券事業」を創設し、子育て世代に対する経済的支援と地元商店街活性化を目的に、中学生以下の子どもを持つ世帯を対象に、20%のプレミアム付商品券3000万円分を発行いたす計画であります。

また、乳幼児の心と体が豊かに育つことを願い、赤ちゃんと保護者を対象とした「子育て支援ブックスタート事業」を計画してまいります。その他、乳幼児医療費6歳未満児までの無料化や妊婦健診の無料化をはじめ、延長保育や一時保育、子育て支援センターや心身障害児に対する福祉事業の充実を行うなど、さつま町独自の子育て環境整備に取り組むための「こども育成基金」の設置についても、今後検討してまいります。